

- 問1

7世紀後半、天智天皇の死後にその跡継ぎをめぐって大海人皇子と大友皇子が争った、古代最大といわれる内乱はどれですか。（2026年 三重県公立入試 類似）

1. 平治の乱

2. 保元の乱

3. 壬申の乱

4. 壬生の乱
- 問2

7世紀半ば、朝鮮半島の南西部に位置し、日本（倭）と親密な関係にあったものの、唐と新羅の連合軍によって滅ぼされた国はどこか。日本はその復興を支援するために、663年に朝鮮半島へ大軍を送ったが、白村江の戦いで大敗を喫することとなった。（2018年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 百済

2. 高句麗

3. 任那

4. 新羅
- 問3

白村江の戦いにおける大敗後、大和政権が急速に中央集権体制の確立（公地公民や律令の整備）を急いだ背景として、当時の東アジア情勢から考えられる理由を説明したものとして適切なものはどれですか。（2025年 奈良県公立入試 類似）

1. 遣隋使の派遣を停止し、日本独自の国風文化を育てることで精神的な団結を図ったから。

2. 唐や新羅による侵攻の脅威に対抗するため、国力を結集し強力な国家を創る必要があったから。

3. 朝鮮半島での利権を完全に放棄し、国内の開墾事業に専念して食糧増産を目指したから。

4. 平氏や源氏といった武士団の台頭を抑え、天皇中心の軍隊を再編する必要があったから。
- 問4

7世紀後半、天智天皇の死後に発生したその後継者をめぐる大規模な内乱について、この争いに勝利した大海人皇子が即位後に行った政治的な取り組みとして、最も適切なものはどれか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

1. 冠位十二階や十七条の憲法を制定し、家柄にとらわれない人材登用を目指した。

2. 武士の力を初めて政治に利用し、全国に守護や地頭を配置して統治を強めた。

3. 摂政や関白の役職を確立し、藤原氏が政治の実権を握る基盤を作った。

4. 天皇の権威を大幅に強化し、律令国家の完成に向けた新しい政治の仕組みを整えた。
- 問5

7世紀後半、朝鮮半島において唐と結ぶことで百済や高句麗を滅ぼし、半島を初めて統一した国を選びなさい。（2014年 和歌山県公立入試 類似）

1. 新羅

2. 隋

3. 高句麗

4. 百済
- 問6

7世紀後半、日本が白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、九州北部の防衛を強化するために大宰府の北西に築かれた、全長約1.2kmに及ぶ巨大な土塁と堤防からなる防衛施設を何といいますか。（2024年 北海道公立入試 類似）

1. 壇ノ浦

2. 多賀城

3. 水城

4. 大仙古墳
- 問7

聖徳太子が活躍した7世紀前後の外交や文化に関する記述として、正しいものはどれか。（2020年 福岡県公立入試 類似）

1. 鑑真を日本に招き、唐の進んだ律令制度を完成させるとともに、国風文化を大きく発展させた。

2. 元寇による危機を乗り越えるため、執権を中心とした武家政権が沿岸部の防衛を強化した。

3. 倭の五王が中国の南朝に使いを送り、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権を認めるよう求めた。

4. 小野妹子を遣隋使として中国に派遣し、大陸の進んだ制度や仏教などの文化を積極的に取り入れた。
- 問8

飛鳥時代、聖徳太子の命を受けて中国（隋）へ渡り、当時の進んだ制度や文化を吸収しようとした人物は誰か。（2024年 大分県公立入試 類似）

1. 鑑真

2. 最澄

3. 阿倍仲麻呂

4. 小野妹子
- 問9

壬申の乱に勝利して即位し、律令に基づく天皇中心の国づくりを強力に進めた人物は誰ですか。（2024年 岩手県公立入試 類似）

1. 聖武天皇

2. 推古天皇

3. 天武天皇

4. 桓武天皇
- 問10

663年の白村江の戦いにおいて、唐・新羅の連合軍に大敗した倭（日本）の政権が、大陸からの侵攻に備えて九州や瀬戸内沿岸で実施した防衛策として最も適切なものを選びなさい。（2024年 大分県公立入試 類似）

1. 東北地方に多賀城を築き、蝦夷の反乱に備えて鎮守府を置いた

2. 大宰府の北側に水城を築き、各地の要所に朝鮮式山城造った

3. 博多湾の沿岸に石築地（元寇防壁）を築き、武士を動員した

4. 大陸との交流を断絶するため、遣唐使の派遣を完全に停止した
- 問11

645年に始まった政治改革の資料において、中大兄皇子や中臣鎌足が蘇我氏を打倒し、新たな政治体制を築こうとする記述が見られます。この一連の改革によって日本で初めて元号が導入された背景として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 熊本県公立入試 類似）

1. 天皇が国の主権者として時間を支配することを示し、中央集権国家の威信を内外に宣言するため。

2. 有力な豪族たちが交代で元号を決める権利を持つことで、貴族政治の安定を図るため。

3. 蘇我氏が代々使用してきた独自の暦を廃止し、仏教の教えに基づいた新しい時間管理を行うため。

4. 中国の唐に対して完全な服従を誓い、唐と同じ元号を使用することで安全保障を得るため。
- 問12

飛鳥時代、聖徳太子が604年に定めた「十七条の憲法」の第一条には、「和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗（むね）とせよ」という一節があります。このように役人の心得を説き、天皇の命令に従うことを強調した主な目的として最も適切なものはどれですか。（2018年 大分県公立入試 類似）

1. 仏教を国教と定め、寺院を建立するための多額の税を民衆から徴収するため

2. 唐の律令にならい、犯罪に対して厳しい刑罰を科すことで社会の秩序を保つため

3. 氏姓制度を強化し、有力な豪族が代々高い役職を独占する仕組みを維持するため

4. 豪族どうしの争いを鎮め、天皇を中心とする中央集権的な国家体制を整えるため
- 問13

白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、倭国（日本）の政権は、大陸からの侵攻を非常に強く警戒するようになりました。そのための防衛対策として、九州地方を中心に実施された内容として正しいものはどれですか。（2024年 高知県公立入試 類似）

1. 元軍の再来に備えて、博多湾の沿岸に石築地（元寇防壁）を築いた

2. 大宰府の北側に水城（みずき）を築き、沿岸部に防人（さきもり）を配置した

3. 東北地方の蝦夷（えみし）を制圧するために、多賀城を築き鎮守府を置いた

4. 白河上皇が北面の武士を組織し、御所の警備と寺社の強訴を防いだ
- 問14

7世紀初め、推古天皇の摂政として政治を行い、家柄にとらわれず才能や功績のある人物を役人に登用する「冠位十二階」や、役人が守るべき道徳的な心得を記した「十七条の憲法」を定めた人物は誰か。（2020年 福岡県公立入試 類似）

1. 後醍醐天皇

2. 徳川綱吉

3. 大久保利通

4. 聖徳太子
- 問15

7世紀後半、日本（倭）が「白村江の戦い」で唐・新羅の連合軍に敗れた後、九州地方では大規模な防衛施設の建設が進められました。大宰府を守るために築かれた、全長約1.2kmにおよぶ巨大な土塁と、背後の山に築かれた朝鮮式山城の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2025年 茨城県公立入試 類似）

1. 水城と大野城

2. 鴻臚館と多賀城

3. 屋島城と基肄城

4. 金田城と板付遺跡

答え合わせ・解説

問1	答え 3 壬申の乱	天智天皇が亡くなった後、その弟である大海人皇子と、子である大友皇子の間で後継者争いが起こりました。これが672年の壬申の乱です。勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、中央集権化をさらに推し進めることとなりました。
問2	答え 1 百済	7世紀の朝鮮半島では、唐と結んだ新羅が勢力を拡大していました。660年に百済が滅亡すると、日本（倭）は友好関係にあった百済の遺臣から救援を求められ、復興を支援するために大軍を派遣しました。しかし、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北したことで、百済復興の道は閉ざされました。
問3	答え 2 唐や新羅による侵攻の脅威に対抗するため、国力を結集し強力な国家を創る必要があったから。	対外的な軍事的敗北は、当時の政権にとって国家滅亡の危機でもありました。唐や新羅の侵攻に備えるためには、軍備を整えるだけでなく、戸籍を作成して徴兵や徴税を確実に行える強力な政府（中央集権国家）を作る必要がありました。これが、天智天皇から天武天皇、持統天皇へと続く律令国家建設の大きな動機となりました。
問4	答え 4 天皇の権威を大幅に強化し、律令国家の完成に向けた新しい政治の仕組みを整えた。	天智天皇の死後に起きた壬申の乱で、天皇の息子である大友皇子を破った大海人皇子は、天武天皇として即位しました。天武天皇は、それまでの豪族中心の政治から天皇中心の強力な中央集権体制への転換を図りました。具体的には、飛鳥浄御原令の編纂に着手したり、国史（後の『古事記』や『日本書紀』）の編纂を命じたりするなど、律令国家の基礎を固める重要な役割を果たしました。
問5	答え 1 新羅	4世紀頃から高句麗、百済、新羅の3国が勢力を争う三国時代が続いていましたが、7世紀に唐と結んだ新羅が660年に百済、668年に高句麗を相次いで滅ぼしました。その後、新羅は共同で戦った唐の勢力も退け、676年に朝鮮半島の統一を成し遂げました。
問6	答え 3 水城	663年の白村江の戦いで大敗した倭（日本）は、唐や新羅が日本列島へ侵攻してくることを強く警戒しました。そのため、天智天皇（中大兄皇子）は九州北部の外交・軍事の拠点であった大宰府を保護するため、福岡平野の最も狭まった場所に巨大な土塁を築き、その外側に水を貯えた「水城」を建設して防衛線を整えました。
問7	答え 4 小野妹子を遣隋使として中国に派遣し、大陸の進んだ制度や仏教などの文化を積極的に取り入れた。	聖徳太子は、対等な立場での外交を目指して遣隋使を派遣しました。ここでの学びが、日本初の憲法とされる「十七条の憲法」における仏教の尊重や、儒教的な役人の心得といった内容に反映されています。
問8	答え 4 小野妹子	聖徳太子は、中国の進んだ制度や仏教文化を直接学ぶことで、天皇を中心とした国づくりを進めることを目指しました。そのために派遣されたのが遣隋使であり、小野妹子はその代表的な人物です。これにより、日本は中国との対等な外交関係を模索しつつ、律令国家の礎となる知識を得ることができました。
問9	答え 3 天武天皇	大海人皇子は壬申の乱で勝利を取った後、天武天皇として即位しました。天武天皇は、律令の編纂に着手したり、それまでの「大王」に代わって「天皇」の称号を本格的に使用し始めたりするなど、強力な指導力を発揮して国家の基盤を固めました。
問10	答え 2 大宰府の北側に水城を築き、各地の要所に朝鮮式山城造った	白村江の戦いで大敗を喫した倭の政権は、唐・新羅の連合軍が日本列島へ攻めてくることを恐れ、急ピッチで国防を整えました。中大兄皇子（天智天皇）は、亡命してきた百済の貴族の指導のもと、対馬や北九州から瀬戸内沿岸にかけて山城（朝鮮式山城）を築かせ、さらに九州の政治拠点である大宰府を守るために大規模な土塁と堀を持つ「水城（みずき）」を建設しました。また、防人（さきもり）を配置して沿岸の警備を強化しました。
問11	答え 1 天皇が国の主権者として時間を支配することを示し、中央集権国家の威信を内外に宣言するため。	元号の制定は、単なる年数の数え方の変更ではなく、その土地を支配する君主が時間をも支配するという「空間と時間の主権」を象徴する行為でした。大化の改新において中大兄皇子らが日本初の元号「大化」を定めたのは、それまで力を持っていた蘇我氏などの有力豪族を抑え、天皇を中心とした律令国家を形成しようとする強い政治的意志の表れです。
問12	答え 4 豪族どうしの争いを鎮め、天皇を中心とする中央集権的な国家体制を整えるため	聖徳太子が活躍した時代は、有力な豪族どうしの対立が激しく、国家としてのまとまりが欠けていました。そこで、役人が守るべき道徳的な規範として十七条の憲法を制定し、仏教の尊重や天皇への服従を求めることで、天皇を中心とした組織的な政治の仕組みを固めようとした。
問13	答え 2 大宰府の北側に水城（みずき）を築き、沿岸部に防人（さきもり）を配置した	白村江の戦いでの敗北後、天智天皇（中大兄皇子）は唐・新羅の侵攻に備え、対外防衛の拠点である大宰府を保護するために水城や山城を築きました。また、東国の兵士を「防人」として九州沿岸の警備に当たらせ、国家としての守りを固めました。他の選択肢は鎌倉時代の元寇対策や、平安時代の東北経営・院政期の説明です。
問14	答え 4 聖徳太子	推古天皇を助ける摂政として活躍したこの人物は、中国の進んだ制度を取り入れることで、天皇を中心とした中央集権的な国家体制の基盤を築こうとしました。これは後の律令国家形成に向けた重要な一歩となりました。
問15	答え 1 水城と大野城	663年の白村江の戦いで大敗した中大兄皇子（天智天皇）は、唐や新羅の日本侵攻を恐れ、九州の政治拠点である大宰府の防衛を急ぎました。平地には「水城」と呼ばれる巨大な土塁を築いて敵の進軍を阻み、山の上には「大野城」などの山城を築いて防御を固めました。これらの施設は、当時の緊迫した国際情勢を反映しています。